

術前診断が上腕骨小頭離断性骨軟骨炎であった 上腕骨外上顆剥離骨折の一例

○三輪 晶子 (みわ あきこ) (MD)¹⁾, 中川 泰彰 (MD)¹⁾, 山田 茂 (MD)¹⁾, 向井 章吾 (MD)¹⁾,
佐治 隆彦 (MD)¹⁾, 坪内 直也 (MD)¹⁾, 藪本 浩光 (MD)¹⁾, 中村 孝志 (MD)¹⁾,
瀬戸口 芳正 (MD)²⁾

¹⁾ 国立病院機構 京都医療センター 整形外科

²⁾ みどりクリニック

【目的】

上腕骨小頭の離断性骨軟骨炎 (以下, OCD) は若年の野球投手に好発する疾患であり, 放置すると可動域制限や変形性関節症が進行する. 従って, 早期診断, 早期治療が必要となる.

今回, 14 歳の野球少年で上腕骨小頭 OCD と診断し, 手術にて直視下に病巣部を確認したところ, 上腕骨外上顆の剥離骨折であったため骨片摘出術を施行した症例を経験したので報告する.

【症例】

14 歳男性. 10 歳から野球を開始し, 13 歳時から徐々に右肘痛が出現したため当院を受診した. X 線上, 右上腕骨小頭外側に遊離骨片を認め, MRI 上同部位に遊離した骨軟骨片を認めたため, 右上腕骨小頭 OCD と診断し自家骨軟骨移植術の方針とした. 手術にて実際に病巣部を確認したところ, 遊離体は見られず上腕骨小頭は正常であり, 上腕骨外上顆に軟骨を含まない小骨片を認め, 同部位の剥離骨折と診断し, 骨片の摘出術を施行した. 術後 1 ヶ月で右肘痛は消失し, 軽い投球を開始し, 術後 4 ヶ月で競技能力は 100% に回復した. 可動域制限なく, 術後 1 年経過した現在も野球を継続している.

【考察】

上腕骨小頭の OCD は日常臨床の現場でよく遭遇する疾患である. 詳細な病歴を聴取するとともに, MRI, CT などで病巣部を正確に評価すれば診断することができるが, 時に今回の症例のように野球の肘障害として上腕骨外上顆の剥離骨折の存在も認識しておくべきである.